

- 問1 日本の東側の海域に関する記述において、千島列島に沿って北から南へと流れる寒流であり、栄養分が豊富なことから魚の餌となるプランクトンを多く運んでくる海流の名称を選択してください。 (2018年 千葉県公立入試 類似)
1. リマン海流 2. 対馬海流 3. 黒潮 (日本海流) 4. 親潮 (千島海流)
- 問2 日本列島の周辺を流れる海流のうち、太平洋を北上する黒潮 (日本海流) から分かれ、九州の北側を通って日本海へと流れ込み、沿岸を北上する暖流の名称を次の中から選びなさい。 (2026年 大阪府公立入試 類似)
1. リマン海流 2. 親潮 (千島海流) 3. 千島海流 4. 対馬海流
- 問3 扇状地と三角州を比較した説明として、正しいものはどれですか。 (2017年 香川県公立入試 類似)
1. 扇状地は海岸沿いの波の作用によって形成され、三角州は火山活動による溶岩の堆積によって形成される。
。 2. 扇状地は泥や粘土などの細かい粒子が堆積し、三角州は大きな岩や礫が堆積して形成される。 3. 扇状地は川が山から平地に出た場所に形成され、三角州は川が海や湖に流れ込む河口に形成される。 4. 扇状地は地形が非常に平坦なため水田に利用され、三角州は傾斜があるため果樹園に利用される。
- 問4 大阪府周辺に見られる「瀬戸内の気候」の特徴を説明したものととして、最も適切なものはどれですか。なお、比較対象として、日本海側では冬の降水量が多く、太平洋側では夏の降水量が400mmを超える月があるものとします。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
1. 年間を通じて温暖であり、各月の降水量は概ね100mmから200mm程度で、他の地域に比べて雨が少ない。
。 2. 1月や12月といった冬季に降水量が急増し、季節風の影響で雪が多く降る。 3. 夏季の降水量が非常に多く、台風や季節風の影響で一ヶ月の降水量が400mmを超えることがある。 4. 一年を通じて気温の変化が非常に激しく、冬の気温は常に氷点下を下回る。
- 問5 谷の出口から平地へ向かって同心円状に等高線が広がる地形において、その傾斜地の一般的な土地利用と地形の名称の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2022年 高知県公立入試 類似)
1. 扇状地において、広大な水田地帯として利用される。 2. 扇状地において、果樹園として利用される。 3. 三角州において、ブドウや桃の果樹園として利用される。 4. 三角州において、主に水田として利用される。
- 問6 九州地方の東側から本州の太平洋岸を通過し、東北地方の沖合で親潮 (千島海流) とぶつかる海流の名称と性質の組み合わせとして、適切なものを選びなさい。 (2019年 山形県公立入試 類似)
1. リマン海流 ― 寒流 2. 親潮 (千島海流) ― 寒流 3. 黒潮 (日本海流) ― 暖流 4. 対馬海流 ― 暖流
- 問7 2021年の年代別インターネット利用率の調査によると、10代から50代までは90%を超えている一方、70代は約60%、80歳以上は約20%と、高齢になるほど利用率が低下しています。このような状況が、地域の防災活動に与える影響として最も適切なものはどれですか。 (2023年 山口県公立入試 類似)
1. 全世代で一律に利用率が高いため、どの年代に対してもSNSを用いた情報発信だけで十分な効果が得られる。 2. 高齢者の利用率が若年層を大きく上回っているため、インターネットを用いた情報発信は高齢者層に最も有効である。 3. 若年層のインターネット利用率が著しく低いため、スマートフォンを用いた避難情報の通知は効果がない。
。 4. 災害時の避難情報をインターネットのみで発信すると、支援が必要な高齢者に情報が届かない恐れがある。
。
- 問8 1980年から2015年にかけての統計によると、日本の林業従事者数は大幅な減少傾向にあります。このように林業の担い手が不足し、森林の整備が不十分なまま放置された場合に起こる現象として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 滋賀県公立入試 類似)
1. 日光が遮られることで森林内の温度が下がり、地球温暖化を抑制する機能が強化される。 2. 樹木が密集して日光が地表に届かなくなり、下草が育たず土砂崩れのリスクが高まる。 3. 木材の希少価値が高まることで国内の木材価格が暴騰し、林業が急速に活性化する。 4. 手入れが行われないことで森林の面積が急速に拡大し、農地や住宅地を侵食する。
- 問9 地形図上の地点Dにおいて、三つの道路が合流する丁字形の交差点があり、進行方向に向かって描かれている等高線の数値が大きくなっています。また、道路の両側には建物を表す記号が並んでいます。この地点の状況を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 東京都公立入試 類似)
1. 十字路の交差点に位置し、進行方向は下り坂となっており、沿道には果樹園が広がっている。 2. 十字路の交差点に位置し、進行方向は登り坂となっており、周囲には針葉樹林が分布している。 3. 丁字形の交差点に位置し、進行方向は登り坂となっており、沿道には住宅が建ち並んでいる。 4. 丁字形の交差点に位置し、進行方向は下り坂となっており、周囲は広大な水田地帯となっている。
- 問10 日本の地形において、高い山脈に挟まれた盆地や、複数の山地に囲まれた地域では、周辺部に比べて年間の降水量が少なくなる傾向があります。湿った季節風が山を越えてこれらの地域に吹き込む際、どのような仕組みで降水量が減少するのですか。 (2017年 秋田県公立入試 類似)
1. 山に囲まれた地域は標高が低いため、上昇気流が発生せず雲が形成されないため 2. 湿った空気が山を越える前の斜面で雨を降らせ、水分を失った乾燥した空気が流れ込むため 3. 高い山脈が防風林のような役割を果たし、湿った空気が盆地の内部へ入るのを完全に遮断するため 4. 周囲の山々から冷たい空気が吹き下ろし、地表付近の水蒸気が雲になるのを妨げるため
- 問11 ある地域の防災計画において、急斜面を示す記号と針葉樹林の記号が重なるエリアのすぐ近くに、住宅地や寺院が位置している状況を想定します。この地域で防災上の対策を検討する際に、最も重視すべき事項はどれですか。 (2022年 兵庫県公立入試 類似)
1. 洪水による浸水被害を防ぐため、寺院や住宅の周囲に高い防潮堤を建設すること。 2. 急斜面での地滑りを防ぐため、住宅地の地下に大規模な貯水池を整備すること。 3. 土壌の乾燥による火災を防ぐため、針葉樹林をすべて伐採して田畑に転換すること。 4. ハザードマップを確認し、がけ崩れの予兆や避難場所を事前に把握しておくこと。
- 問12 三陸海岸のようなリアス海岸が広がる地域において、過去に発生した自然災害の到達点や被害状況、避難の教訓を後世に伝えるために各地に設置されているものは何か、最も適切なものを選びなさい。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
1. 過去の津波の教訓を記録した石碑 2. 火山噴火による火砕流の範囲を示す石像 3. 台風による高潮の被害を記録した記念碑 4. 大規模な洪水の水位を記した標柱

答え合わせ・解説

問1	答え 4 親潮（千島海流）	千島列島に沿って南下してくるため千島海流とも呼ばれる寒流です。この海流はプランクトンを豊富に含んでおり、日本の太平洋側の漁業において重要な役割を果たしています。日本海側を流れる寒流であるリマン海流との混同に注意が必要です。
問2	答え 4 対馬海流	黒潮（日本海流）は、東シナ海を北上し、トカラ列島付近で二手に分かれます。その一部が九州の西側から北側を通り、日本海へと入る海流が対馬海流です。日本海を北上する唯一の暖流であり、沿岸の気候に大きな影響を与えています。
問3	答え 3 扇状地は川が山から平地に出た場所に形成され、三角州は川が海や湖に流れ込む河口に形成される。	どちらも河川の堆積作用によって作られる地形ですが、形成場所が異なります。扇状地は山地から平地への「出口」に作られ、粒子が大きく傾斜があります。一方、三角州は流れが完全に止まる「河口」に作られ、粒子が非常に細かく、非常に平坦な地形となるのが特徴です。
問4	答え 1 年間を通じて温暖であり、各月の降水量は概ね100mmから200mm程度で、他の地域に比べて雨が少ない。	瀬戸内の気候は、北側の中国山地と南側の四国山地に挟まれているため、季節風の影響を受けにくいのが特徴です。そのため、年間を通じて温暖で、降水量が他の地域に比べて少なく、乾燥した晴天の日が多くなります。冬に降水量が多いのは日本海側の気候、夏に極端に降水量が多いのは太平洋側の気候の特徴です。
問5	答え 2 扇状地において、果樹園として利用される。	山から平地へ出る谷口を頂点として広がる地形は扇状地です。地図上では等高線が同心円状（扇形）に描かれることが特徴です。このような場所では、その優れた排水性を活かして、水田ではなく果樹園として土地が利用されることが一般的です。これに対し、川の河口付近にできる低湿な地形は三角州と呼ばれ、主に水田に利用されます。
問6	答え 3 黒潮（日本海流）― 暖流	九州の東側を通過して太平洋を北上する海流は黒潮です。黒潮は水温が高い「暖流」であり、東北地方の沖合にある「潮目（潮境）」において、北から南下してくる冷たい「寒流」である親潮と合流し、プランクトンが豊富な好漁場を形成します。
問7	答え 4 災害時の避難情報をインターネットのみで発信すると、支援が必要な高齢者に情報が届かない恐れがある。	統計が示す通り、高齢層のインターネット利用率は若年層に比べて顕著に低い状況にあります。災害時に迅速な避難が求められる高齢者に対し、メールやアプリによる情報発信だけでは不十分であり、防災行政無線や広報車、電話など、複数の手段を組み合わせることで情報を伝える工夫が求められます。
問8	答え 2 樹木が密集して日光が地表に届かなくなり、下草が育たず土砂崩れのリスクが高まる。	林業従事者が減少して間伐などの手入れが行き届かなくなると、木が過密状態になります。すると、林の中に日光が差し込まなくなり、地面を覆う下草が枯れてしまいます。下草がなくなると土壌を保持する力が弱まるため、大雨の際に土砂が流出しやすくなるなど、森林の持つ多面的な機能が損なわれる原因となります。
問9	答え 3 丁字形の交差点に位置し、進行方向は登り坂となっており、沿道には住宅が建ち並んでいる。	地形図において道が三叉に分かれている部分は「丁字形（T字型）」の交差点を示します。また、進行方向に向かって等高線の数値が大きくなっていることは、標高が高くなっていることを意味するため「登り坂」であると判断できます。さらに、道路沿いに建物の記号が密集している様子は、住宅地としての土地利用が行われていることを表しています。
問10	答え 2 湿った空気が山を越える前の斜面で雨を降らせ、水分を失った乾燥した空気が流れ込むため	日本の気候は季節風の影響を強く受けますが、海からの湿った空気が高い山を越えるとき、斜面に沿って上昇することで雲が発達し、風が当たる側の斜面（風上）に雨や雪を降らせます。その山を越えて盆地や反対側の地域（風下）に吹き込む空気は、すでに水分を失って乾燥しているため、降水量が少なくなるというメカニズムです。この現象は中央高地や瀬戸内などの地域で顕著に見られます。
問11	答え 4 ハザードマップを確認し、がけ崩れの予兆や避難場所を事前に把握しておくこと。	急斜面と針葉樹林が隣接する住宅地では、大雨の際のがけ崩れが人命に直結する大きな脅威となります。そのため、住民は自治体が発行するハザードマップを利用して、自分の家が土砂災害警戒区域に入っているかどうかを確認し、避難経路や避難場所を日常的に意識しておくことが重要です。他の選択肢にある防潮堤は主に津波や高潮対策であり、この状況における適切な防災行動とは言えません。
問12	答え 1 過去の津波の教訓を記録した石碑	リアス海岸が続く三陸地方などは、奥まった湾の形によって津波が巨大化しやすく、古くから甚大な被害を受けてきました。そのため、津波が実際に到達した地点などに石造りの記念碑を建立し、「ここより下に家を建てるな」といった具体的な避難行動や教訓を後世に伝える文化が根付いています。2019年からは国土地理院の地図記号に「自然災害伝承碑」として追加されるなど、防災教育の観点からも重要視されています。